

# やさしくわかる介護者向けの高次脳機能障害

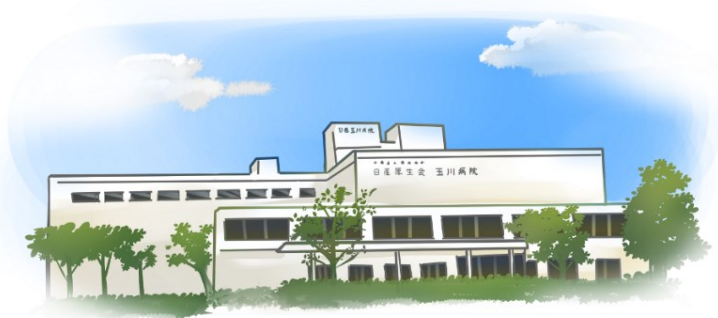
## No.2 失語症の評価と訓練

2024年3月6日

公益財団法人 日産厚生会玉川病院

リハビリテーション科

言語聴覚士 兼子 遥



# 失語症の評価とは？

---

収集した情報を分析・総合し、言語機能、コミュニケーション能力・活動、種類、重症度を把握し予後を予測する  
また、訓練内容を考える

→ 面接・観察・検査を実施する



# 検査って何するの？

---

- ・スクリーニング検査

  - 言語・コミュニケーション障害が疑われる患者に対して  
大まかに障害の有無や種類を把握するための検査

- ・面接、観察

- ・失語症鑑別診断検査

- ・掘り下げ検査



# 面接・観察のPoint

---

## ・コミュニケーション態度

反応は？ 礼節は？ 表情は？

## ・全般的なコミュニケーション能力 言語的な面 非言語的な面

受容面：通常のコミュニケーションでどのくらい？

援助はどれくらい必要？ 援助があればどのくらい？

表出面：通常のコミュニケーションでどのくらい？

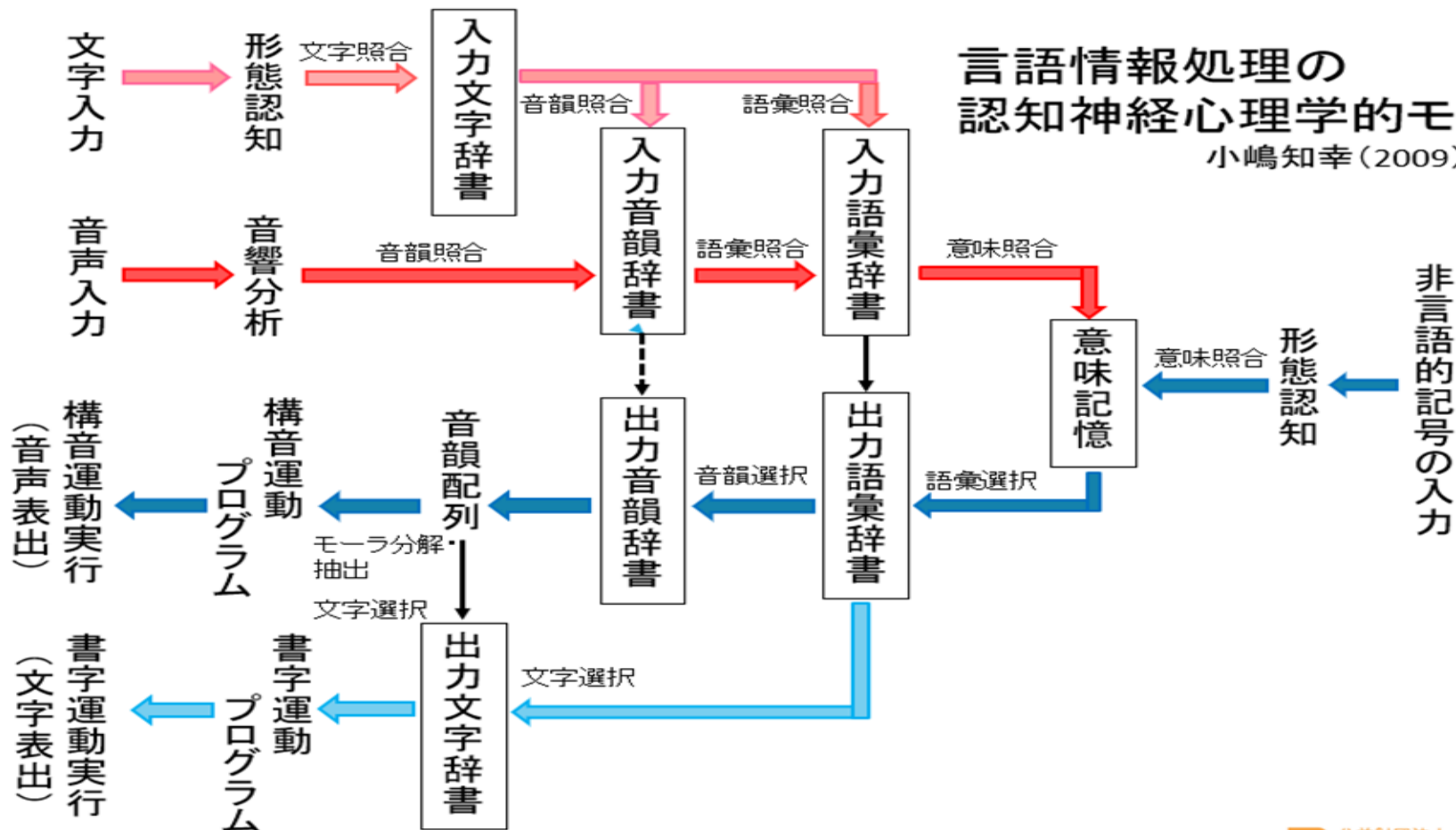
代償手段は活用している？ どんなもの？

援助は必要？



# そもそも言語処理って・・・？

言語情報処理の  
認知神経心理学的モデル  
小嶋知幸(2009)参考



# 聴いて理解する

音声入力 → 音響分析 → 音韻辞書 → 語彙辞書 → 意味記憶

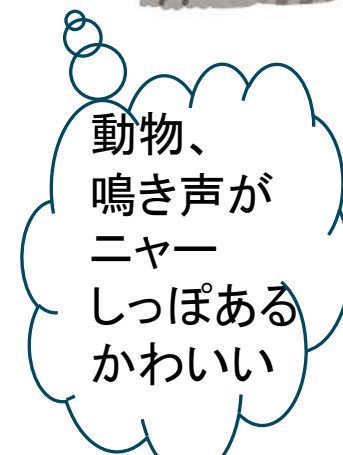


あ	ち	お
ね	こ	
	ふ	

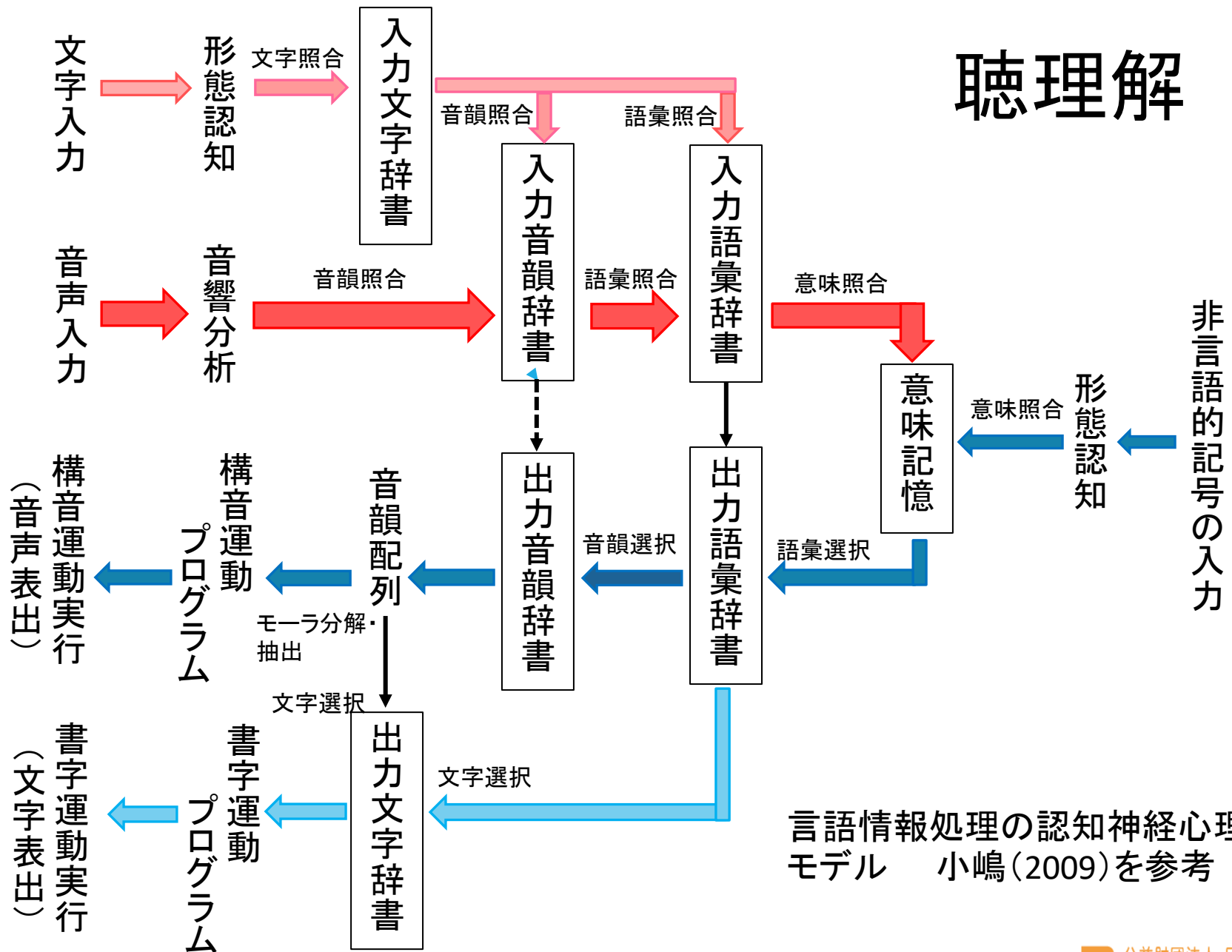
1番目が「ね」  
2番目が「こ」

あめ	やね
えこ	...
いぬ	よこ
ねこ	うえ
	...

「ねこ」



# 聴理解



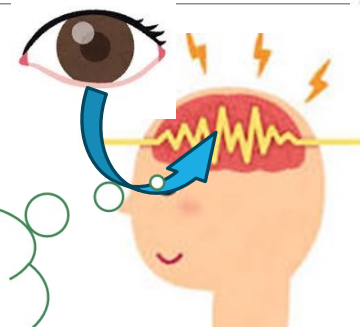
言語情報処理の認知神経心理学的モデル 小嶋(2009)を参考

# 呼称する

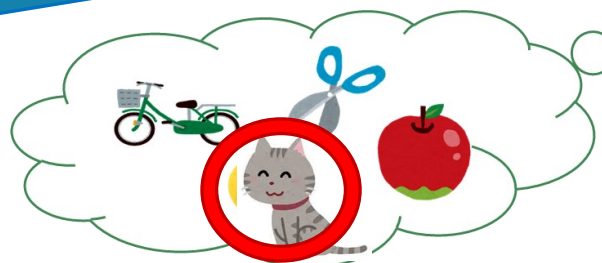
非言語記号  
の入力



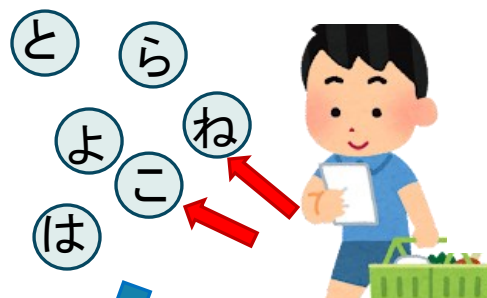
形態認知



語彙辞書



音韻辞書



音韻配列

1番目が「ね」

2番目が「こ」

構音プログラム



呼称

/neko/

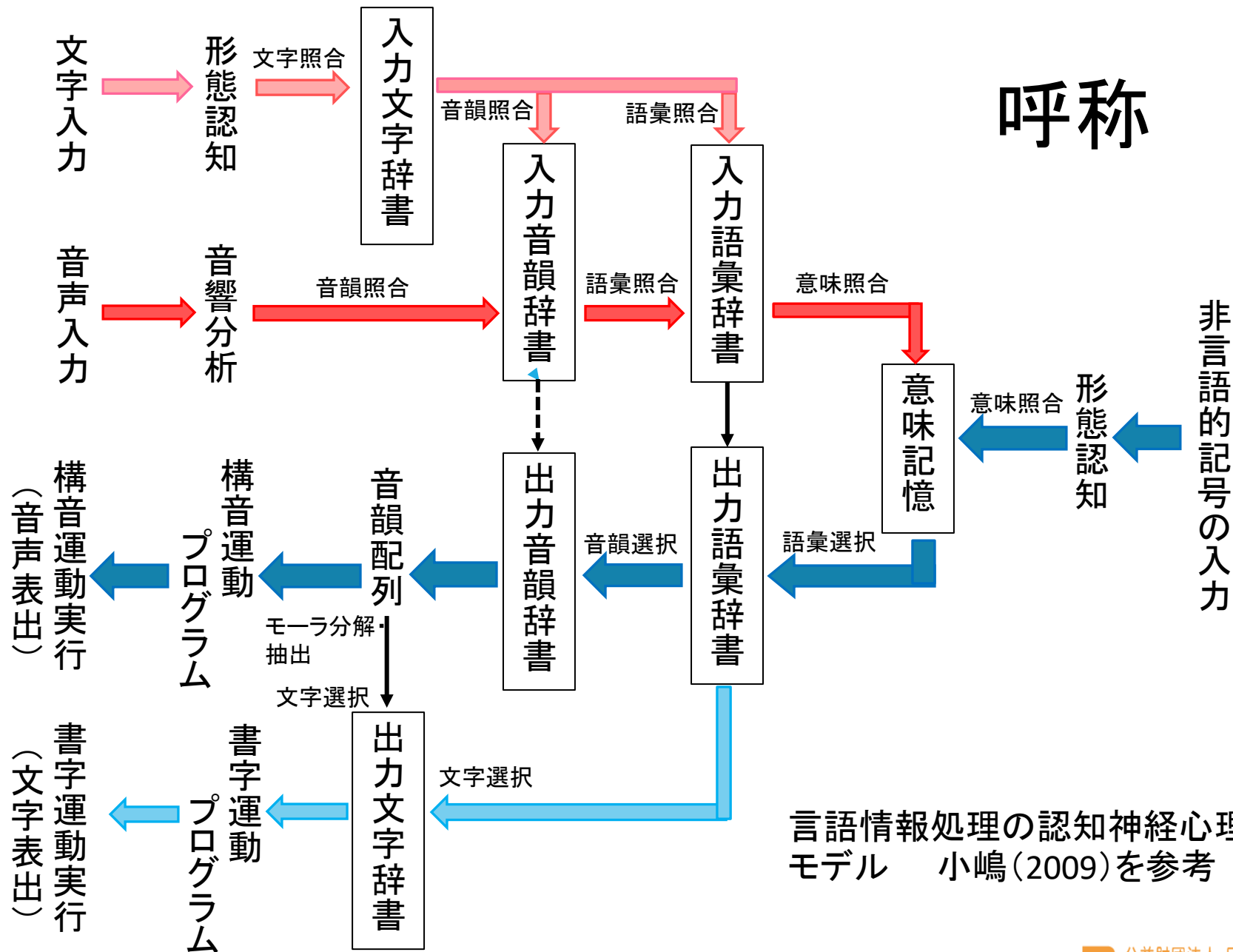


公益財団法人 日産厚生会

玉川病院



# 呼称



# 失語症鑑別診断検査

---

- ①失語症と類似する障害との鑑別し、失語症の有無を確定
- ②タイプと重症度の判定
- ③症状の特徴把握
- ④予後予測し、訓練の適応について判断
- ⑤訓練方針の設定

例) 老研版 失語症鑑別診断検査 (D.D.2000)

標準失語症検査 (SLTA)

WAB失語症検査

# 標準失語症検査 (SLTA)

「聴く」「話す」「読む」「書く」「計算」

5分野から構成された検査

## ・ヒントの有効性

→ 訓練への応用が可能

## ・失語症の有無や重症度を知ることが可能

→ その人の強みと弱みを  
知ることができる！



# SLTAの読み取り

---

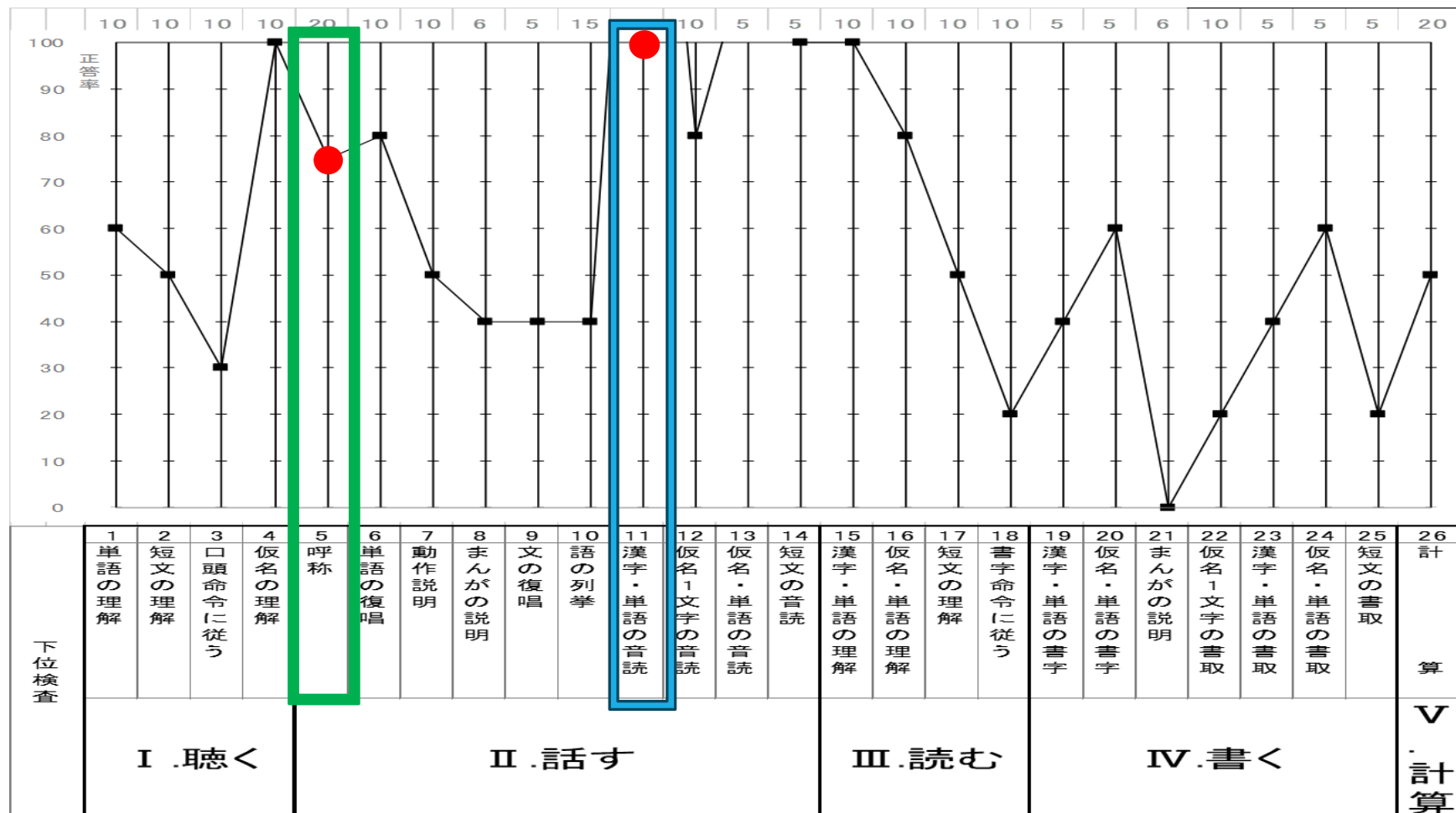
SLTAの項目は障害の量的質面を見ている

→ 障害メカニズムを表しているのではない

→ メカニズムを捉えるには

検査項目を横断的に見る必要がある！

# 横断的に見るとは・・・？



# 掘り下げ検査

---

失語症鑑別検査の結果の読み込みだけでは不十分

→ そのため診断の精度を高め、訓練に必要な詳細な情報を得るために実施する検査のこと

例) SALA失語症検査: 認知心理学をもとに作られた総合検査

標準失語症検査補助テスト: SLTAの詳細分析

失語症構文検査: 文法の理解・表出の詳細分析

失語症語彙検査(TLPA): 単語の詳細分析

トークンテスト: 軽微な聴理解障害を調べる検査

実用コミュニケーション能力検査(CADL)

… など

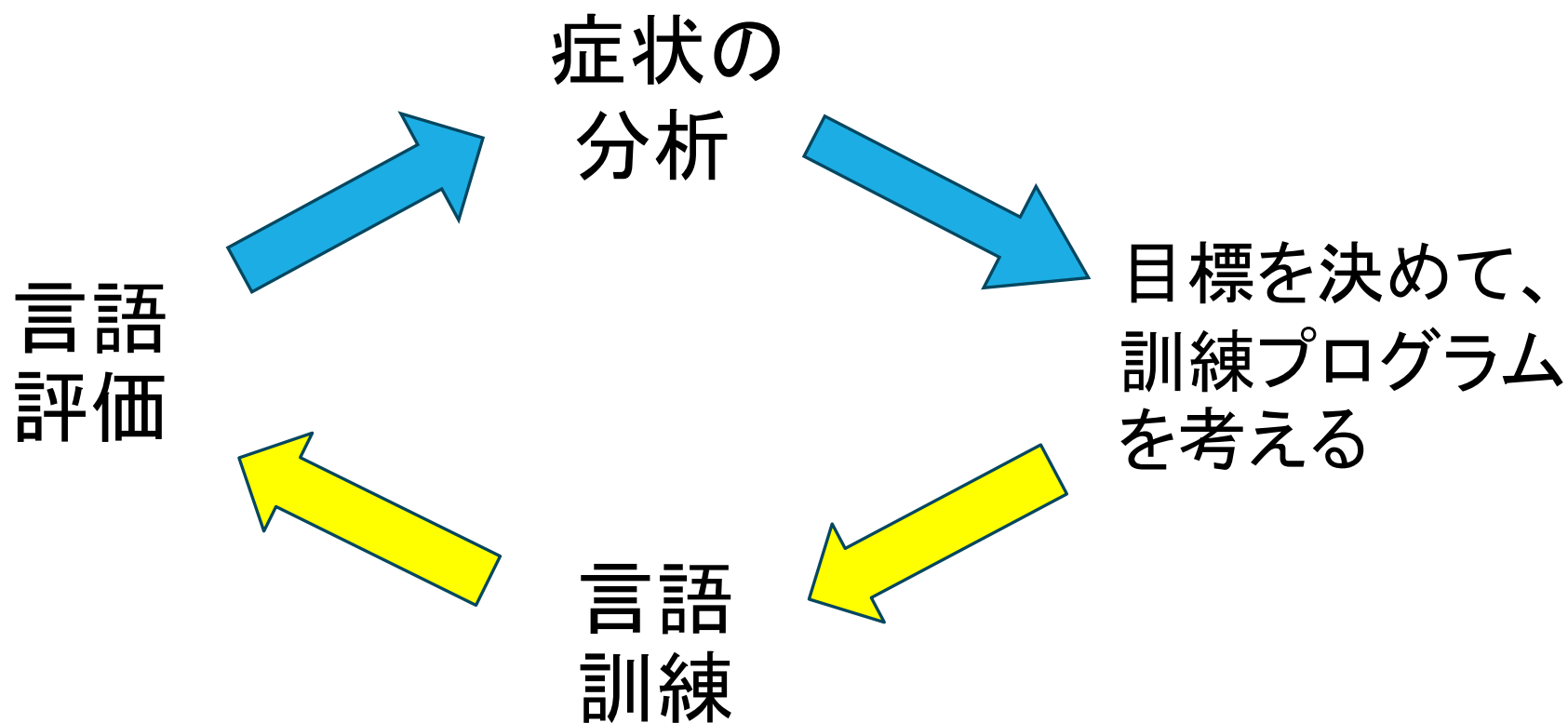
# 失語症の回復に関わる主な要因

---

- ①病巣の位置と広がり、残存脳の状態
- ②合併するその他の高次脳機能障害と精神心理的状态
- ③発症年齢
- ④利き手
- ⑤性別
- ⑥原因疾患・合併症・運動麻痺
- ⑦機能回復訓練の内容・頻度・期間
- ⑧社会的要因（家庭環境、病前の社会環境、言語習慣など）

# 失語症の言語訓練

---

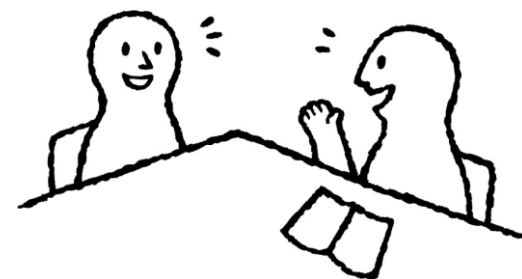




# 言語訓練での「会話」

---

- ・ラポール形成（患者さんとSTの信頼関係をつくる）
- ・体調や心理状態の観察・確認
- ・会話能力の評価と改善 役割交代、話題の維持
- ・全般的なコミュニケーションを引き出す
- ・言語訓練の般化がみられるか確認
- ・心理的指示



# 訓練の技法の紹介

---

- (1) 刺激促通法
- (2) 遮断除去法
- (3) 機能再編成法
- (4) PACE訓練
- (5) MIT メロディックイントネーションセラピー
- (6) パソコンと失語症訓練

# (1) 適切な刺激を与える

---

## 「刺激促通法」

- ・適切な言語刺激をたくさん与える
- ・刺激に対する何らかの反応を引き出す
- ・正しい反応を褒め、得られた反応を選択的に強化する



# さまざまな刺激を統制する

頻度	日常生活・社会の中でどの程度出現しているか
心像性	形、色、音、においなどイメージの浮かびやすさ
親密度	その人にとっての馴染み深さ

異カテゴリーと同カテゴリー

選択肢の数

提示する数・速さ

漢字・かな

文の長さ・複雑さ

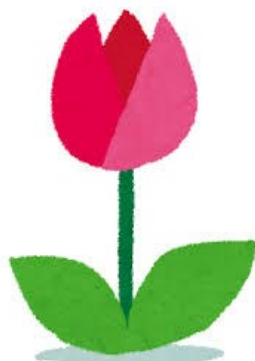
・・・などを考慮して難易度を調節する



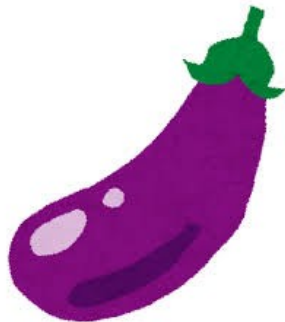
高頻度語	バナナ	野球	卵
低頻度語	灯台	土俵	らくだ
高頻度/高心像	階段	写真	弁当
低頻度/低心像	論理	工芸	礼儀

# 単語の理解

異カテゴリーの中から選ぶ（易しい）

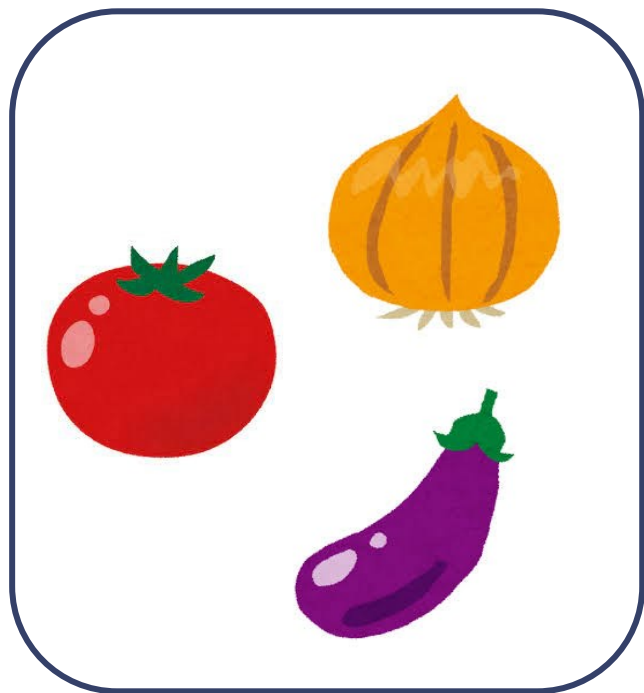


# 同カテゴリーの中から選ぶ(難しい)



# 選択肢の数

少ない(易しい)



多い(難しい)





## (2) 良好なルートを活用する

### 「遮断除去法」

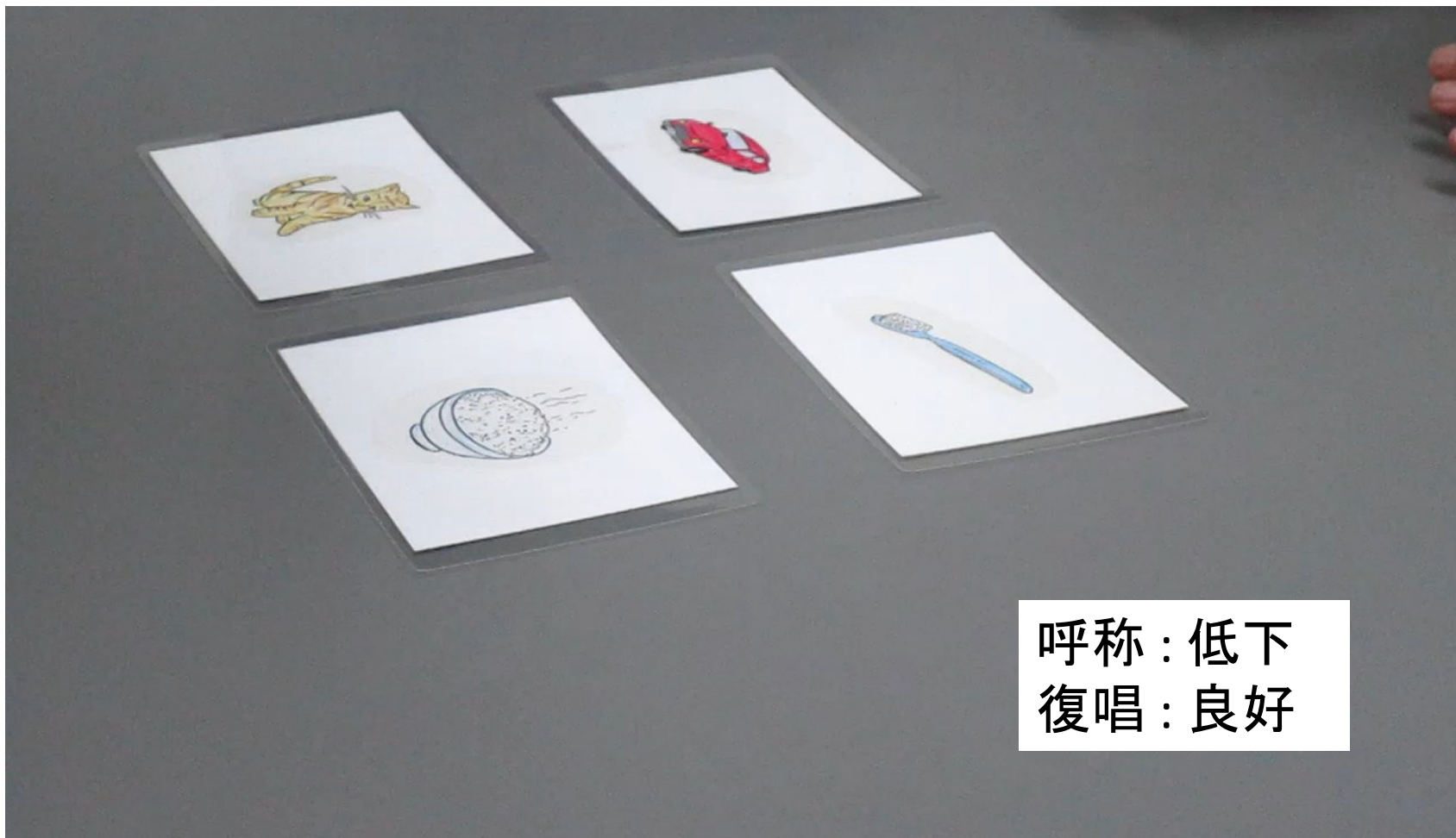
良好な言語モダリティ(様式)で正答した後、一定時間内であれば障害された言語モダリティでも正答となりやすい。

前刺激として、良好に保たれているルートから十分な刺激を与え、障害されている経路の回復を図る。

難易度の低いもの → 高いもの  
言語理解 → 発話 → 書字 という順序性

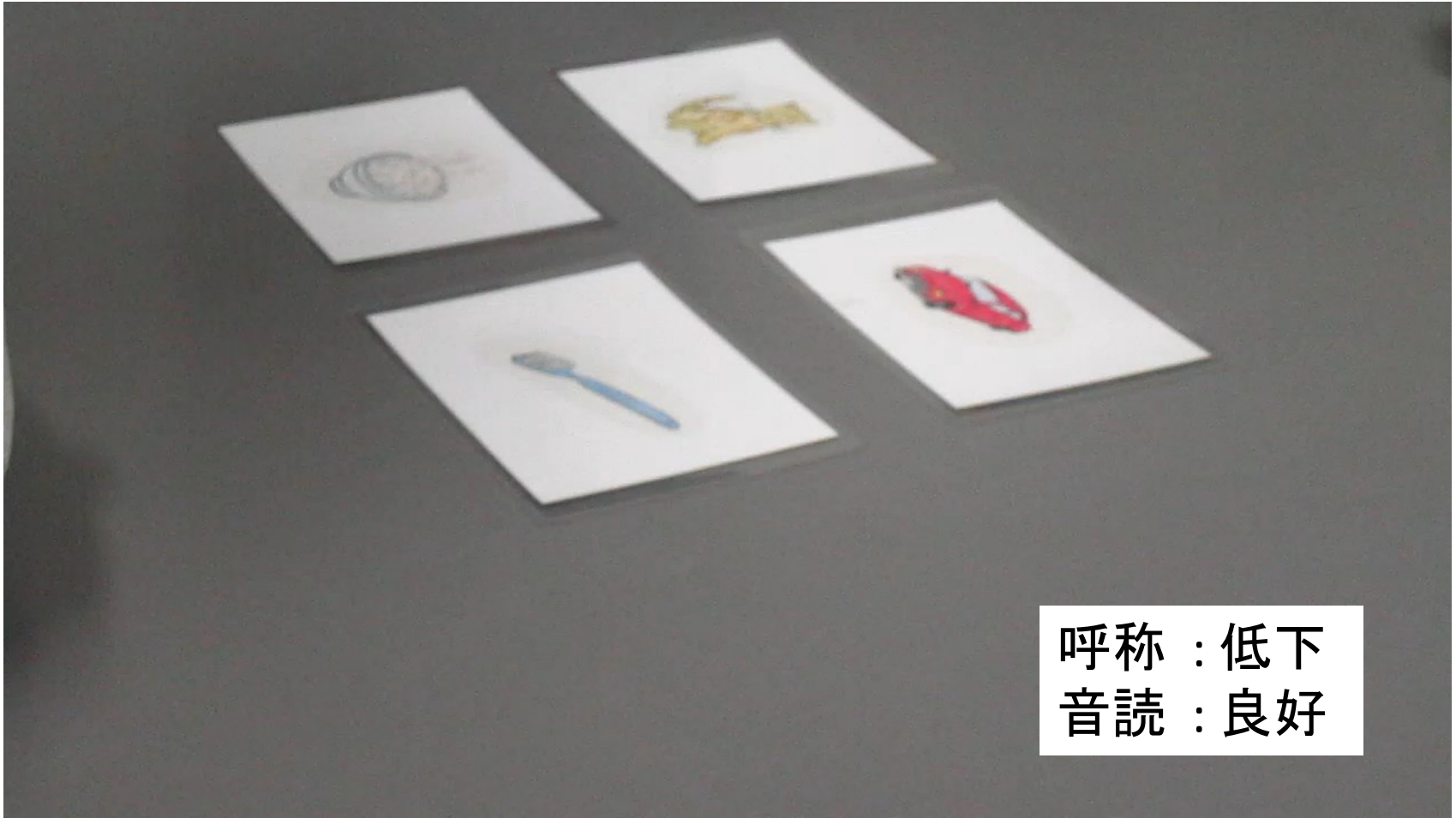
# 呼称①

聽理解 → 復唱 → 呼称



# 呼称②

読解 → 音読 → 呼称



呼称 : 低下  
音読 : 良好

## (3) 新たな迂回ルートを作る

---

### 「機能再編成法」

障害された処理過程を直接修復するのではなく、保たれたモダリティー(様式)をバイパスルート(迂回路)として活用し強化する。

# 呼称③

漢字書字 ・ 音読 → 呼称



呼称：低下  
漢字書字：良好

# (4) PACE訓練

Promoting Aphasics Communicative Effectiveness

---

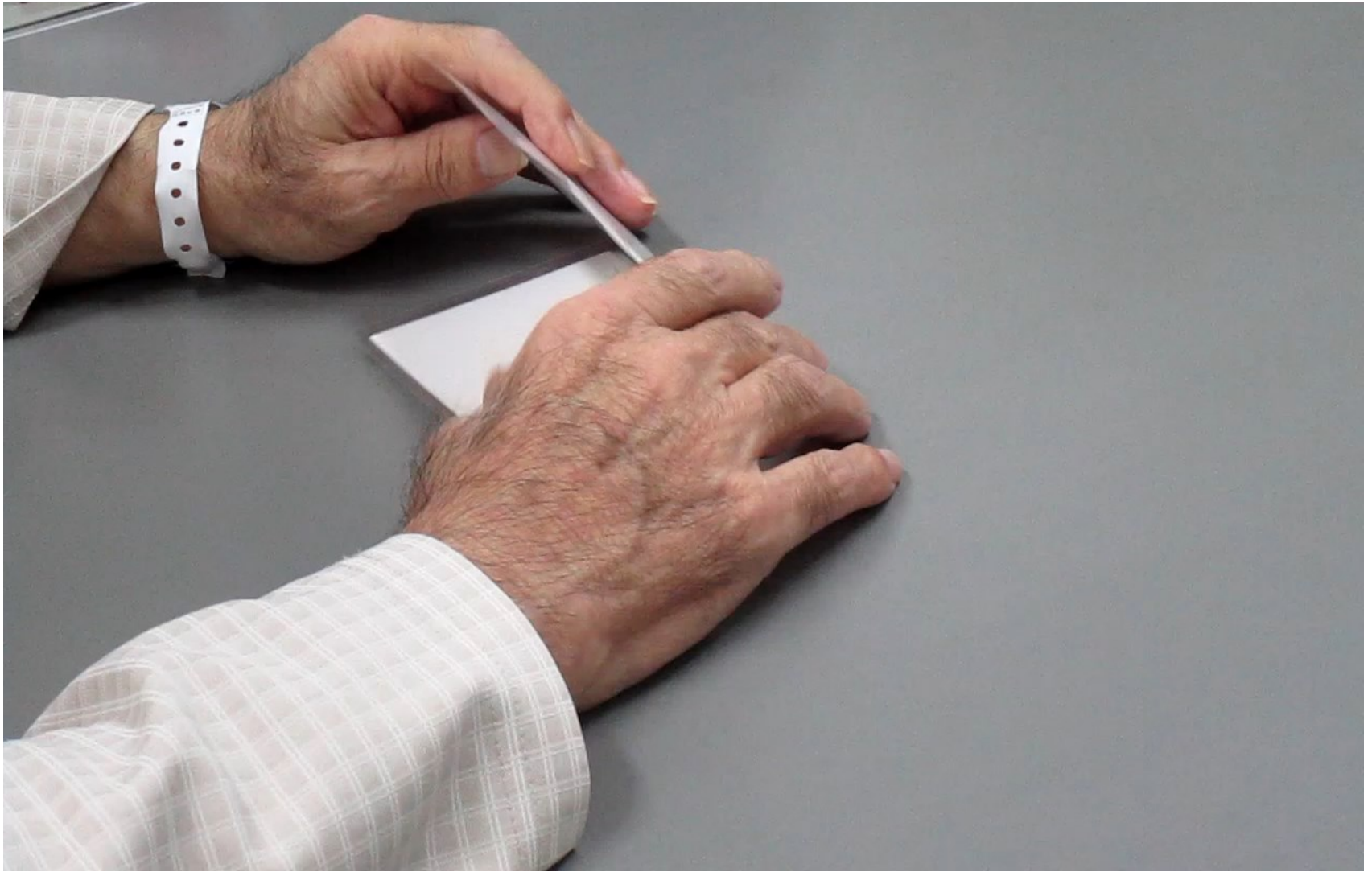
日常のコミュニケーション場面に近い設定  
対話方式を重視する

## 【原則】

- ・STと患者が情報の受け手と送り手となり、立場を交代する
- ・新しい情報を交換する
- ・伝達手段は、発話・書字・ジェスチャー・描画など自由に  
選択できる

# 言葉以外のコミュニケーション







# (5) MIT

## Melodic intonation Therapy

---

- ・ 右半球の機能である複数の音楽的な要素  
(プロソディー:リズム・イントネーション・アクセント)  
を用いて、  
運動性失語症・非流暢性失語症の発話機能の改善  
を促進する技法

日本メロディックイントネーションセラピー協会

MIT日本語版 講習会、技法の習得

## (6) パソコンと失語症訓練

- ・コンピューターのソフトウェアやwebアプリの利用
- ・オンライン訓練

- ・パソコンやスマホの文字入力には  
仮名文字の練習が必要。

→ LINEなどのコミュニケーションツールは  
スタンプの活用も可能



# 終わりに

---

- STは言語症状の分析からその人の強みと弱みを知り、プログラムを考えて言語訓練を行なっている。
- 言語訓練は言葉をたくさん覚えることが目的なのではなく、言語を処理するシステムの機能回復や再編成を目指している
- 言語機能だけでなく、コミュニケーション全体の回復を目指す → コミュニケーション相手側の支援も必要

# 参考資料

---

- ・「失語症のすべてがわかる本」

加藤正弘 小林知幸 監修

- ・「なるほど！失語症の評価と治療」

小林知幸 編著

- ・「動画と音声で学ぶ 失語症の症状とアプローチ」

森田秋子 春原則子 編集

- ・「実践！失語症のリハビリテーション」

中川良尚 佐野洋子 船山道隆 著